

第2 茨城県の交通事故

1 県内の交通事故発生状況

(1) 概要

発生件数は平成12年をピークに平成13年から8年連続で減少し、負傷者数も大幅に減少した。死者数は210人で、前年より32人増加し、昭和34年以来48年振りに100人台まで減少した平成19年から一転、再び200人台となった。

本県の死者数の全国順位はワースト第6位、人口10万人当たりの死者数は全国ワースト第3位と、依然として死亡事故多発県に位置している。

(2) 第1当事者の年齢別発生状況(P29~38参照)

「20歳代」は、発生件数(4,130件、全事故の22.7%)、死亡事故件数(50件、全死亡事故の24.8%)とともに最も多い年齢層で、前年比では発生件数(-801件)は減少、死亡事故件数(+8)は増加した。

「高齢者(65歳以上)」の発生件数は2,444件(全事故の13.4%)、死亡事故件数は34件(全死亡事故の16.8%)で、前年比では発生件数(-63件)は減少、死亡事故件数(+8件)は増加した。

(3) 月別発生状況(P39~41参照)

「12月」(1,763件)が最も多く、次いで「10月」(1,686件)、「2月」(1,614件)の順となっている。前年比では「8月」(-394件)が大きく減少した。

死者数では「8月」(26人)が最も多く、「6月」が5人と、月別資料の残る昭和37年以降最少を記録した。前年比では「8月」(+12人)、「12月」(+11人)及び「10月」(+10人)が大きく増加した。

(4) 曜日別発生状況(P42~43参照)

「金曜日」(2,890件)が最も多く、「日曜日」(2,009件)が最も少ない。

他の曜日は、ほぼ同数となっている。前年比では「水曜日」(-465件)が大きく減少した。

死者数は「日曜日」(33人)、「金曜日」(32人)が多く、前年比では「月曜日」(+11人)の増加が多い。

(5) 時間別発生状況(P44~45参照)

「8~9時」(1,706件)が最も多く、次いで「17~18時」(1,630件)の順となっている。

前年比では「10~11時」(-191件)及び「17~18時」(-188件)が大きく減少した。

死者数では「16~17時」及び「21~22時」(各15人)が最も多く、次いで「0~1時」及び「19~20時」(各12人)の順となっている。前年比では「16~17時」(+10人)が大きく増加した。

(6) 路線別発生状況(P46~54参照)

「市町村道」(7,643件、全事故の41.9%)が最も多く、次いで「国道」(5,191件)、「県道」(4,570件)の順に多い。

死者数では「国道」(68人、全死者の32.4%)が最も多く、次いで「県道」(67人)、「市町村道」(65人)の順に多い。

(7) 道路形状別発生状況(P 55 ~ 57参照)

発生件数は、「直線」(8,008件、全事故の43.9%)が最も多く、次いで「交差点」(6,591件)の順に多い。前年比では「直線」(-825件)が大きく減少した。

死者数は「直線」(87人、全死者の41.4%)が最も多く、次いで「交差点」(77人)の順に多い。

(8) 第1当事者の車両別発生状況(P 58 ~ 61参照)

「普通乗用自動車」が、発生件数(10,293件、全事故の56.5%)、死亡事故件数(86件、全死亡事故の42.6%)とともに最も多い。前年比では「軽乗用自動車」(+137件)が増加し、「普通乗用自動車」(-1,662件)が大きく減少した。

(9) 第1当事者の事故類型別発生状況(P 62 ~ 67参照)

「追突」(6,987件、全事故の38.3%)が最も多く、次いで「出会い頭」(5,213件)の順で、この2つで全事故の約7割(66.9%)を占める。前年比では「追突」(-766件)、「出会い頭衝突」(-583件)が大きく減少した。

死者数では「出会い頭」(45人、全死者の21.4%)が最も多く、次いで「歩行者横断中」(44人)の順に多い。前年比では「正面衝突」(+10人)、「歩行者横断中」(+9人)が大きく増加した。

(10) 第1当事者の原因別発生状況(P 68 ~ 73参照)

前方不注意や安全不確認等の「安全運転義務違反」(14,523件、全事故の79.7%)が最も多く、次いで「信号無視」(750件)、「一時不停止」(639件)の順に多い。

死亡事故件数では「前方不注意」(35件、全死亡事故の17.3%)が最も多く、次いで「最高速度」及び「安全速度」(各25件)、「右側通行」(21件)の順に多い。前年比では「安全速度」(+10件)、「右側通行」(+7件)の増加が多い。

(11) 警察署別・市町村別発生状況(P 74 ~ 99参照)

警察署別では「水戸署」(2,851件)が最も多く、次いで「土浦署」(1,463件)、「日立署」(1,148件)の順、死者数では「水戸署」(20人)が最も多く、次いで「鹿嶋署」(17人)、「牛久署」(12人)の順となっている。

市町村別では「水戸市」(2,504件)、次いで「つくば市」(1,413件)、「土浦市」(1,204件)の順、死者数では「水戸市」(14人)、次いで「つくば市」(12人)、「鹿嶋市」、「稲敷市」及び「古河市」(各10人)の順に多い。

人口1,000人当たりの発生件数は、「水戸市」(9.48件)、「土浦市」(8.38件)、「那珂市」(8.33件)の順に多い。

(12) 年齢状態別死傷者数(P 100 ~ 109参照)

状態別では「四輪車乗車中」が、死者数(76人、全死者の36.2%)、負傷者数(17,671人、全負傷者の75.2%)ともに最も多い。

年齢別死者数では「高齢者(65歳以上)」が89人で最も多く、その状態別は「歩行中

(41人、構成率46.1%)、「自転車乗用中」(18人、構成率20.2%)、「四輪車運転中」(12人)の順に多い。年齢別負傷者数では「30歳代」(4,636人)が最も多く、その状態別は「四輪車運転中」(3,407人)が約7割(73.5%)を占めた。

(13) シートベルト着用状況(P 110～113参照)

四輪車乗車中の死者76人中、37人(構成率48.7%)がシートベルトを着用していなかった。このうち25人(構成率67.6%)は、シートベルトを着用していれば助かった可能性があった。

負傷程度別のシートベルト着用率は、負傷なし(99.1%)、軽傷(94.1%)、重傷(82.1%)、死亡(51.3%)と、着用率の低下に伴い負傷程度も重くなっている。

(14) 飲酒運転(原付以上、酒酔い運転を含む。)による交通事故(P 115～117参照)

発生件数は236件(全事故の1.3%)、死亡事故件数は12件(全死亡事故の5.9%)、死者数は13人(全死者の6.2%)で、死者数の全国順位はワースト第8位である。

第1当事者の年齢層別死亡事故件数は、30歳代(5件、構成率41.7%)が最も多く、次いで40歳代(3件)であった。

(15) 無免許運転による交通事故(P 118～119参照)

発生件数は117件(全事故の0.6%)、死亡事故件数は5件(全死亡事故の2.5%)で、前年比では発生件数(-57件)は減少、死亡事故件数は同数であった。

(16) 最高速度違反による交通事故(P 120～121参照)

発生件数は41件(全事故の0.2%)で、全事故に占める割合は少ないが、死亡事故件数では25件(全死亡事故の12.4%)と死亡事故の大きな原因となっている。

(17) 子供(中学生以下)が関係した交通事故(P 122～126参照)

発生件数は「幼・園児」364件、「小学生」666件、「中学生」464件で、前年比では「幼・園児」(-55件)、「小学生」(-42件)、「中学生」(-121件)とも減少した。

死者数は「幼・園児」が5人、「小学生」が3人、「中学生」が1人であった。

状態別死傷者数では「幼・園児」、「小学生」は四輪車同乗中(構成率:幼・園児78.3%、小学生46.4%)が多く、「中学生」は自転車乗用中(構成率67.5%)が多い。原因別では、自転車乗用中が「安全不確認」(構成率24.8%)、歩行中が「飛び出し」(構成率30.7%)と多い。

(18) 高校生の交通事故(P 127～129参照)

高校生が関係した事故件数は1,012件(全事故の5.6%)、死者数が5人(全死者の2.4%)で、前年比では発生件数(-193件)、死者数(-4人)とも減少した。

状態別死傷者数では、自転車運転中(構成率46.7%)、原付運転中(構成率24.6%)の順に多い。

死者数は、原付運転中が3人、自転車運転中が1人、原付同乗中が1人であった。

(19) 青少年(16～24歳)の交通事故(P 130～133参照)

青少年が関係した事故件数は5,826件(全事故の32.0%)、死者数が26人(全死者の12.4%)で、前年比では発生件数(-1,060件)、死者数(-1人)とも減少した。

青少年は平成5年まで死者数の最も多い年齢層であったが、平成6年に高齢者に入れ替わり、その後大幅な減少傾向にある。

青少年運転者(原付以上)による事故件数は3,249件(全事故の17.8%)で、平成13年以降8年連続で減少した。

死亡事故件数は35件(全死亡事故の17.3%)で、前年比(+2件)は増加した。死亡事故の原因別では、最高速度(構成率22.9%)、右側通行(構成率17.1%)が多く、事故類型別では正面衝突(構成率25.7%)、人対車両横断中(構成率17.1%)が多い。

(20) 高齢者(65歳以上)の交通事故(P 134～136参照)

高齢者が関係した事故件数は4,448件(前年比-212件)で、平成18年から3年連続で減少した。死者数は89人(全死者の42.4%)で、前年より増加(+15人)し、引き続き「死者数が最も多い年齢層」となっている。

状態別の死者数は、歩行中(41人、構成率46.1%)が最も多く、次いで四輪車乗車中(21人)、自転車乗用中(18人)の順に多い。

高齢運転者(原付以上)による事故件数は2,381件(前年比-58件)と減少したが、死亡事故件数は29件(前年比+6件、全死亡事故の14.4%)で前年より増加した。

(21) 男女別運転者による交通事故(P 137～138参照)

発生件数は男性が約6割(構成率62.8%)、女性が約4割(構成率37.2%)を占めている。発生件数の前年比では、男性、女性ともに減少、死亡事故件数は女性の減少(-9件)に対し、男性は増加(+32件)した。

発生件数を平成11年と比較すると、男性の減少に対し、女性横ばい状態である。

死亡事故を起こした年齢層別では、男性、女性ともに「20歳代」が最も多く、事故類型別では、男性、女性とも「追突」、「出会い頭衝突」が多い。

(22) 初心運転者による交通事故(P 139参照)

発生件数は908件(全事故の5.0%)、死亡事故件数は7件(全死亡事故の3.5%)で、前年比では発生件数(-190件)、死亡事故件数(-4件)とも減少した。

年齢層別では「20歳未満」が最も多く、発生件数が652件(構成率71.8%)、死亡事故件数が4件(構成率57.1%)となっている。

時間別では、朝「7～9時」と「16～19時」の時間帯が多く、死亡事故では「21～1時」の時間帯に多発(構成率57.1%)した。

(23) 県外者による交通事故(P 140参照)

発生件数は2,085件(全事故の11.4%)、死亡事故件数は31件(全死亡事故の15.3%)で、前年比では発生件数(-230件)は減少、死亡事故件数(+2件)は増加した。

路線別では発生件数、死亡事故件数とも「国道」が最も多く、都道府県別では隣接する「千葉県」、「栃木県」、「埼玉県」の居住者が多い。

(24) 事業用自動車による交通事故(P 141参照)

発生件数は872件(全事故の4.8%)、死亡事故件数は22件(全死亡事故の10.9%)で、前年比では発生件数(-140件)は減少、死亡事故件数は同数であった。

車種別では「貨物車」が最も多く、発生件数(728件、構成率83.5%)、死亡事故件数(18件、構成率81.8%)とも高率である。

路線別では「国道」(構成率47.4%)、「市町村道」(構成率24.2%)の順に多く、年齢層別では「50歳代」が最も多い。

(25) ダンプカーによる交通事故(P 142参照)

発生件数は90件(全事故の0.5%)、死亡事故件数は1件(全死亡事故の0.5%)で、前年比では発生件数(-14件)は減少、死亡事故件数は前年と同数であった。

事故類型別では「追突」(41件、構成率45.6%)が最も多く、次いで「出会い頭衝突」(21件、構成率23.3%)の順で、時間帯別では「8~9時」が多い。

(26) 二輪車の交通事故(P 143~144参照)

二輪車が関係した事故件数は1,866件(全事故の10.2%)、死者数が32人(全死者の15.2%)で、発生件数(-348件)は減少、死者数(+4人)は増加した。

このうち原付の発生件数は1,199件(全事故の6.6%)、死者数は18人(全死者の8.6%)で、前年比では発生件数(-239件)は減少、死者数(+2人)は増加した。

二輪車の死者32人中、ヘルメット着用は26人(構成率81.3%)であった。

二輪車による事故件数は530件(全事故の2.9%)、死亡事故件数は25件(全死亡事故の12.4%)で、前年比では発生件数(-193件)は減少、死亡事故件数(+5件)は増加した。

事故を起こした年齢層別は「20歳未満」が最も多く、事故類型別では「出会い頭衝突」、事故原因別では「前方不注意」、「安全不確認」の順に多い。

(27) 自転車の交通事故(P 145~147参照)

自転車に関係した事故件数は2,665件(全事故の14.6%)、死者数は34人(全死者の16.2%)で、前年比では発生件数(-251件)は減少、死者数(+7人)は増加した。

死傷者数の事故類型別は「出会い頭衝突」、原因別は「安全不確認」が最も多い。

(28) 歩行者の交通事故(P 148~150参照)

歩行者に関係した事故件数は1,389件(全事故の7.6%)、死者数は67人(全死者の31.9%)、前年比では発生件数(+60件)、死者数(+18人)とも増加した。

死傷者数の時間帯別では「16~20時」が3割以上(33.9%)を占めており、年齢層別では「高齢者」(29.3%)、「中学生以下の子供」(19.4%)の順に多く、事故類型別では「道路横断中」、原因別では「飛び出し」、「横断歩道外横断」が多い。

(29) 外国人の交通事故(P 151~152参照)

外国人に関係した事故件数は412件(全事故の2.3%)、死者数が4人(全死者の1.9%)で、前年比では発生件数(-74件)は減少、死者数(+2人)は増加した。

外国人に関係した事故件数は、平成17年から4年連続で減少している。

外国人による事故件数は193件(全事故の1.1%)、死亡事故件数が5件(全死亡事故の2.5%)で、前年比では発生件数(-9件)は減少、死亡事故件数(+1件)は増加した。

国籍別発生件数では「ブラジル」が最も多く、次いで「朝鮮・韓国」、「中国」、「フィリピン」の順に多い。

(30) 踏切事故 (P 153参照)

発生件数は3件、死亡事故の発生はなかった。

(31) 物件事故 (P 154 ~ 155参照)

発生件数は67,320件 (前年比 -2,049件) で、平成18年から3年連続で減少した。